

(環境) 竜美丘小学校 4年  
「ごみ減量大作戦」

9月～12月(12時間)

1 ねらい

9月、社会見学で岡崎市クリーンセンターを見学した。集中管理室で24時間管理された最新の設備を見学した児童らは、ごみを燃やすのではなく、溶かして最終処分場への灰の持ち込みをこれまでの5分の1に減らす工夫を知って驚いていた。

さらに、午後からはリサイクルセンターに足を延ばした。すると、そこには先ほどまでの最新の設備はなく、暑い中、多くの人が軍手をして一つ一つ分別したり、解体したりといった汗を流して働く姿があった。また、ペットボトルがフレーク状になっていく過程やアルミ缶が圧縮されていく様子、ビンが溶かされて置物に生まれ変わる様子も見学することができた。自分たちが何気なく捨てていたごみが、多くの人の手や工夫によってリサイクルされている現実を知り、ごみ減量への思いやさらに詳しく知りたいという探究心が高まったことを感じた。

そこで、2学期の環境学習のテーマを「ごみ減量大作戦」と設定し、リサイクルセンターでは分からなかったリサイクルの様子や、ごみを減らす工夫(リデュース)について調べを進めることとした。



▲ガラス工房を見学

2 実践の概要

(1) リサイクル博士になろう

リサイクルについて個別のテーマを設定し、図書資料やインターネットを活用して調べを進め、ポスター形式でまとめた。

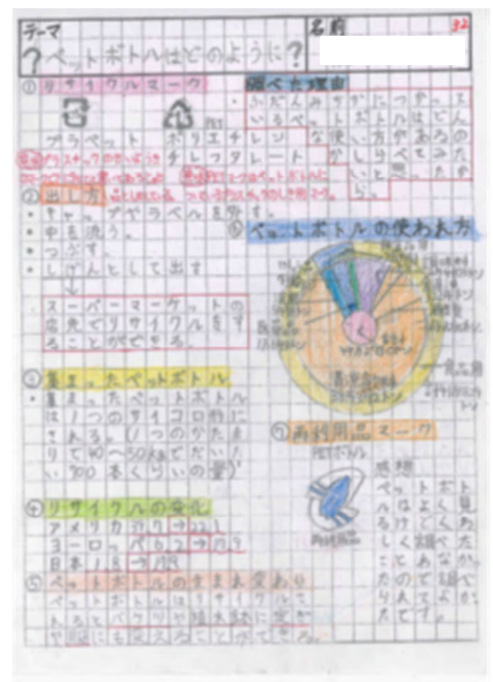
普段家庭で分別されている缶や瓶、ペットボトルなどが、どのように回収され何に再生されるかを調べた。下の表は、児童のポスターの主なテーマである。

ポスターにまとめ終えた後は、テレビ画面に提示器で映しながら、学級発表会を行って交流を行った。

発表の準備として、発表内容からクイズを用意したり、質問に対応できるように調べを深めたりした。

児童のポスターテーマの例

- ・ スチール缶は何になる？
- ・ 紙はどこに行くのか？
- ・ 減らそう！アルミ缶
- ・ アルミ缶ってすごい！
- ・ ペットボトルが生まれ変わるまで
- ・ 電池はリサイクルがしやすい？
- ・ びんのリサイクル



▲リサイクルについてまとめたポスター

### 児童の感想

- ・アルミ缶がまたアルミ缶に生まれ変われるというのを初めて知りました。また同じ製品に生まれ変わるというのは少ないのですごくいいです。「リサイクルの優等生」と言われていることが分かりました。他にも何が同じ製品になるか調べてみたいです。
- ・社会科で勉強したときは、リサイクルとかあまり分からなかったけど、自分で調べて書くところが多くのが分かってとても楽しかったです。
- ・リサイクルがとても大変なこと、すごく手間がかかることが分かりました。これからはリサイクルのことを意識していきたいと思います。

## (2) ごみ減量の実践をしよう

児童らのリサイクルへの関心が高まってきたので、楽しくできるリサイクル工作を紹介し、実践を行うことにした。

### ① 空き瓶を活用した小物入れ作り

あらかじめ家庭に呼びかけておき、空き瓶を持ち寄って、アクリル絵の具で彩色し、小物入れ作りを行った。ビーズを貼り付けるなど工夫しながら、「弟へのクリスマスプレゼントにする」「宝物を入れるんだ」などと言って、自分の好きな絵を書いて楽しそうに制作に取り組んでいた。



▲楽しそうに瓶に彩色する児童

### ② 新聞エコバッグ作り

一人新聞紙1枚半を用意し、エコバッグを作った。新聞紙でもかなりの耐久性があることを知って驚き、休み時間になっても何枚も作り続ける子も多くいた。



▲カラーの絵を生かしてバッグ作り

### 児童の感想

- ・小物入れとエコバッグを作って、こんなふうに簡単に作れるなら、値段が高いものを買わなくてもいいなと思った。たった1枚ちょっとの新聞紙でエコバッグが作れるなら、もっと作りたいです。
- ・ビンや新聞はふつうは使ったらごみになってしまうけど、この学習を終えて、これからは身近なごみをまた新しい物として使ってみたいです。

## 3 実践を振り返って

完成した小物入れやエコバッグはしばらく廊下に展示し、他の児童も見られるようにした。ごみ減量にあたって、我慢を強いるのでは児童にとってリサイクルやリデュースは浸透しないが、ちょっとしたアイデアでごみを減量できることを知るきっかけとなったと思う。次は児童自らが調べたごみ減量の工夫を実践していきたい。



▲完成した小物入れとエコバッグ